

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・北海道新幹線の効果により、飲食店などにプラスの効果が出ている。ただし、それほど大きく伸びているわけではない。
		一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・4月の売上が回復基調にある。年明けの1～3月に比べてもやや良くなってきている。ただ、4月は売上の上がる金土からの始まりで、終わりも金土であったため、そうした要因を勘案するとそれほど良いわけではないということも考えられる。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・客単価は前年並みを維持している状況が継続している。買上客数は店舗全体では前年割れからの改善とまでは至らないものの、婦人服を中心とした衣料品で前年を上回るようになってきており、底を打ってきている。また、店内の買回り客の動向からも客の購買率が改善傾向にある。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・気温の影響もあるが、3か月前と比較して販売量が101%と伸びている。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・北海道新幹線の関連施設を中心に観光客が増加しており、観光産業を中心に景気が良くなっている。
		コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・4月の売上は前年比112%であった。隣接しているスーパーの3日間の改装休業が寄与した。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・北海道新幹線の開業や例年より早い桜開花といった特殊要因はあるが、観光客の入込がすごく、売上は前年を15%上回った。特にディナータイムでは外国人客が半数近くを占める日もみられた。他店も同ような状況にある。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年にテロなどの影響を受け低迷していた海外旅行の申込動向をみると、欧米は引き続き厳しい状況であるが、リゾートや近隣のアジア諸国については需要が戻ってきている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・日勤帯、夜勤帯ともに前年よりも多少は売上が増えてきているため、やや良くなっている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・4月27日時点の利用乗降客数は前年比113%と伸びており、実人数でも約1万5千人の増加となっている。ただ、北海道新幹線の開業後1か月の期間とすると伸びがやや弱いという印象もある。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客の来店周期が若干ではあるが短くなってきている。関連商材にも動きが出てきている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光シーズンに向かっていくこともあり、徐々に輸送量が増加している。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・北海道新幹線の開業に伴い、ホテルや旅館、飲食関係では来客数がとても増えている。ただ、その効果が建築関連までには及んでいない。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・最近では分譲マンションのモデルルームに来訪した客のなかで、その後、契約に至る客の割合が上昇している。金利が低い現在、分譲マンションを購入しようと動いている客が増えている。	
変わらない		商店街（代表者）	来客数の動き	・4月に入り、午前中の人出は少ないものの、午後になると入学、卒業、就職などといった季節特有の買物客が比較的多くみられた。しかしながら、中旬以降は区域内の駐車場にも空きが多くみられるようになり、月全体での前年比は若干低調に推移した。また、中国人を始めとした外国人観光客も前年と同様に今一つの状況であり、物販店ではそれほど売上が伸びなかった。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今年の春は気温の低い日が続いており、春物の売上が低迷している。また、熊本地震の影響から客の間に自粛ムードが漂っており、消費意欲の低下がみられる。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・外国人観光客の来店が大幅に減少する一方で、地元客による売上が回復してこない。来客数も前年から5%ほどダウンしている。フリー客の雑貨購入は健闘しているものの、ファッション関連や高額商材のマイナスが大きい。

百貨店（担当者）	来客数の動き	・来客数の動きに変化がみられない。	
百貨店（役員）	来客数の動き	・競合他店の状況も含めて、来客数の動きに変化がみられない。	
スーパー（店長）	お客様の様子	・大型連休や自動車関連の増税に備えているという客の会話を耳にする。客は日々の生活において極力無駄遣いをしないようにしている。	
スーパー（役員）	来客数の動き	・4月の売上は前年をやや上回って推移している。商品単価が前年から2.0～2.5%低下しているなかで、客単価が前年から0.2～0.3%の低下しているものの、客の買上率が前年よりも2～3%上昇しており、来客数も増加している。ただ、販促によって数値の変動がみられることから、消費者が相当シビアに買物をしている様子がうかがえる。	
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上よりも来客数の減少幅が大きくなってきている。	
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・春になり客が街を歩き始めるようになってきた。ホテルでの催事への来場も前年よりも良く、売上が増加した。	
家電量販店（店員）	来客数の動き	・来客数は前年からやや減少したものの、売上は微増した。前年よりも高額商材が売れている。	
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が出た割に販売量が今一つの伸びであった。	
自動車備品販売店（店長）	競争相手の様子	・当社も、競合店も夏タイヤと車検の販売実績が前年の90%台にとどまっている。特に夏タイヤは天候に左右されたことで販売量が伸びず、売上に響いている。	
その他専門店【ガソリンスタンド】（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が安定しており、販売量が伸びている。	
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・アジアからの団体旅行が低調に推移している。その一方で、Webを中心とした国内からの個人旅行で人員をカバーしている。	
旅行代理店（従業員）	単価の動き	・旅行需要が増えてくる季節だが、熊本地震の影響で取消が相次いでいる。	
美容室（経営者）	販売量の動き	・前年実績と比べても、前月実績と比べても売上がほとんど変わらない。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・月初めは来客数、客単価共に前年の80%程度で推移した。後半になり少しは持ち直してはいるが、前年の90%にも届かない状況である。
	一般小売店【土産】（経営者）	お客様の様子	・例年と比べて卒業旅行の大学生が少なかった。そのほか、新卒者を3名採用したが、3名とも社会人用の服を買ってもらえなかったとの話であった。
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・来客数の減少以上に買上客数の減少が大きく、買上率及び客単価のダウンに歯止めがかからない状況である。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・4月も不振で販売量は前年比89.3%であった。3か月前の1月よりも悪かった。
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合店の対策チラシが増えてきている。また、地元百貨店の閉店が報道されるなど、厳しい環境にある。
	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・売上の内訳を分析すると、来客数は増加傾向にあるものの、商品単価の上昇が続くなかで、買上点数の減少が続いており、消費者の価格上昇に対する慎重な購買行動がみて取れる。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・たばこについては4月からの一部商材の値上げにより販売量が減少している。アルコール類については一部商材の値上げにより販売量が減少しているほか、低価格商材へのシフトがみられ、客単価が低下している。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候面での影響により農家の動きが鈍い。また、気温が低いことから夏型商材の低迷が続いている。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・前年と比べて販売点数が90%で推移するなど少なく、必要最低限のアイテムしか購入に至っていない。天候不順の影響もあるが、熊本地震の影響で客の購買意欲がなくなってきている。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車、中古車ともに成約に結び付かない。他社の動向や他業種も同様の状態のようであり、地域経済が平均して下向き気味になっている。
	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・新型車両の発売にもかかわらず、イベントに来場する客の数が少ない。

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・4月の売上はぎりぎり前年並みとなった。例年4～5月はゴールデンウィーク以外の期間が悪いので、今年の春から値下げ、告知の拡大と手を打ってきたものの、思ったような成果が得られず、多少の停滞感がうかがえる。北海道新幹線の開業効果は、函館周辺ではプラスの効果が表れていると聞いているが、札幌では北海道新幹線の形をした容器に入った駅弁が売れている以外はあまり話題に上がっていない。	
	観光型ホテル (役員)	来客数の動き	・道外からの国内客と外国人観光客のいずれも来客数が減少しており、景気は3か月前と比較して悪化している。さらに、熊本地震や為替の円高傾向の影響もあり、国内外ともに予約数が伸びてこない。	
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・4月は観光要素があまりなく、航空需要が低迷する時期である。さらに、熊本地震により直近の九州旅行のキャンセルが相次いでいる。旅行消費のトレンドは下降傾向にある。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・前年と比べて運送収入、運送本数ともに微減が続いており、景気の停滞感が否めない。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・3か月前と比べて売上が14%程度下がっており、やや悪くなっている。北海道新幹線が開業したが、予想よりも利用客が少なく、売上も伸びていない。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・前々月以降、来客数が減少傾向にある。特に3月中旬以降の減少幅が大きい。外国人観光客による利用は平年並みだったが、国内客の減少幅が大きい。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・例年のことだが、天候に左右される業界であるため、3か月前の冬の時期と比較するとこの時期の景気は良くない。	
	通信会社(社員)	お客様の様子	・客は予算以上の買物は絶対にしない。欲しくても買えないというのが今の状況である。	
	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・総務省のタスクフォースの影響を強く受け、道内主要都市の専門店での販売量が想定よりも大きく減少している。	
	美容室(経営者)	来客数の動き	・イベントに合わせて来客数が集中するため、3か月前と比べると売上がやや悪くなっている。	
	悪くなっている	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・4月に入り、肌寒い日と暖かい日が交互に続いていることから、来客数が前年の9割を下回っており、売上も前年の90%台前半となっている。全館的に婦人物、紳士物ともに厳しい状況にある。
		コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・沿岸部を中心に売上が回復する様子が見られない。来客数の鈍化も続いており、特に夜間の減少が目立っている。当地では3月に高速道路が延長されたが、逆に市内を通る車が減少しているほか、札幌や帯広に流れる人が増えているとみられる。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・来客数が少ないうえ、単価の高い商材の動きも良くない。
		その他専門店[医薬品](経営者)	お客様の様子	・健康に関連する様々な情報訴求を行っているが、さっぱり客のニーズに合わないようだ。
企業動向 関連 (北海道)	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
	建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・中小規模の建築改修工事の入札において、建設会社の職員不足のせいなのか、不落の案件が多くなっている。ただ、業界の景気自体はやや良くなっている。	
	輸送業(支店長)	取引先の様子	・冬場に比べると取引先の物量や見積数が増えている。	
	金融業(従業員)	それ以外	・北海道新幹線が開業し、道南を中心に活況を呈している。外国人観光客の入込の増加が続き、観光関連が好調を維持している。マイナス金利への不安感も薄らぎつつあり、食料品を中心に個人消費も改善基調に転じている。	
	その他サービス業[建設機械リース](営業担当)	受注量や販売量の動き	・補正予算が執行され、新しい案件が出てきた。	
	その他非製造業[鋼材卸売](役員)	受注量や販売量の動き	・新年度になり、客先からの見積案件が増えてきた。消耗資材の売上は低迷中だが、大型設備案件の納入により売上全体が底上げされている。	
	変わらない	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて販売量は増えているが、前年と比べてあまり変わらない量である。

	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・27年度における道内飼料工場の生産量は前年比101%の353万トンとなり、前年を上回ったものの、全国ベースでは2,399万トンと前年から17万トンの減少となり、3年連続で前年割れしている。	
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前は今後の景況感に対して警戒感を持つ状況であったが、4月になり受注量や引き合い件数が持ち直しており、堅調に推移している。	
	司法書士	取引先の様子	・冬期間が終わり、不動産取引や建物の新築において多少の上向きがみられるが、例年のことであり、全体的には依然として低水準で推移している。消費税増税を控えての駆け込み需要を期待しているが、3か月前と比べてあまり変わってこない。	
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・熊本地震の影響が大きい。熊本を始めとして九州に事業所のある会社は軒並み予算を修正してバックアップしている状況である。また、工場の多い地帯でもあることも少なからず影響してくるとみられる。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上が引き続き前年割れとなっている。ただ、前年比は3か月前とほぼ同水準である。	
	やや悪くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国の政策が有効に機能していないことに加えて、熊本地震の影響などにより、消費者の購買マインドが冷えてきている。
		司法書士	取引先の様子	・例年、土地や建物の売買、建物の新築の動きが活発になる時期であるが、低調のままである。
		司法書士	取引先の様子	・建築資材価格や賃金の上昇に伴う販売価格の上昇で販売が奮わない。また、給与の上昇が低いあるいはゼロのため、新築物件を買える層が少なくなっている。これらのことから、景気回復の兆しはみられない。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度の変わり目ということもあるかもしれないが、少なくとも前年の同時期と比べると減速感が明らかに大きくなっている。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人の依頼が確実に増えている。職種別にみると、コールセンターのオペレーターの求人ニーズは恒常的に高いほか、営業・経理の求人も多い。派遣の稼働人数も3か月前と比べて約2割増で推移している。4月に春の各種キャンペーンがあったことを踏まえても人材ニーズが高まってきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年から7.8%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。月間有効求人数は前年から5.1%の増加となり、8か月連続で前年を上回った。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・農繁期に向けて人手不足感が顕著になってきている。また、非正規の求人ではあるが、派遣会社の求人数が増加している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・新規求人や休眠顧客からの求人が前年よりも増加しているが、新規就業者が減少傾向にあるため、人材採用をできない企業が増加している。特に介護業界や建設業界の人材採用が厳しいほか、大型チェーン店の採用活動も苦戦している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・北海道新幹線が開業するまでの1年間は観光や外食産業での求人が好調で全体の求人数の増加に良い影響があったが、開業後の状況についてはまだ判断できない。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・売手市場ということもあり、企業からの求人は相変わらず多いが、厳選採用の傾向に変化はなく、欲しい人材しか採用していないため、状況に大きな変化はみられない。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年と比べて求人件数が10～13%程度減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・73か月連続で前年を上回っていた月間有効求人数が前年を下回った。さらに、新規求人も16か月ぶりに前年を下回った。
	悪くなっている	-	-	-